

# 白雪姫



にき けんじ





雪のように肌の白い 少女がいました  
少女は チンチクリンで中年の小人  
七人に自分のことを 白雪姫と  
よばせていました





そんな中年の小人達  
は 白雪姫の為なら  
どんなに 悪いこと  
でも 平気でやり  
ました 白雪姫の  
そばに いられる  
だけで 幸せだから

でも 白雪姫は 中年の  
小人達が 嫌いでした  
ただ 何でも言うことを  
きくので そばに  
おいている だけ  
でした







白雪姫に かかれば  
どんな男もイチコロ  
でした 手当たり  
しだいに 沢山の  
男とつきあいました

お金は男が貢いだり  
中年の小人達に  
盗ませたりして  
毎日 楽しく  
暮らしていました









そんな ある日 盗みにいっていた  
中年の小人達が たくさんの お金と  
立派な かがみ 真っ赤な りんごを  
もって 帰ってきました



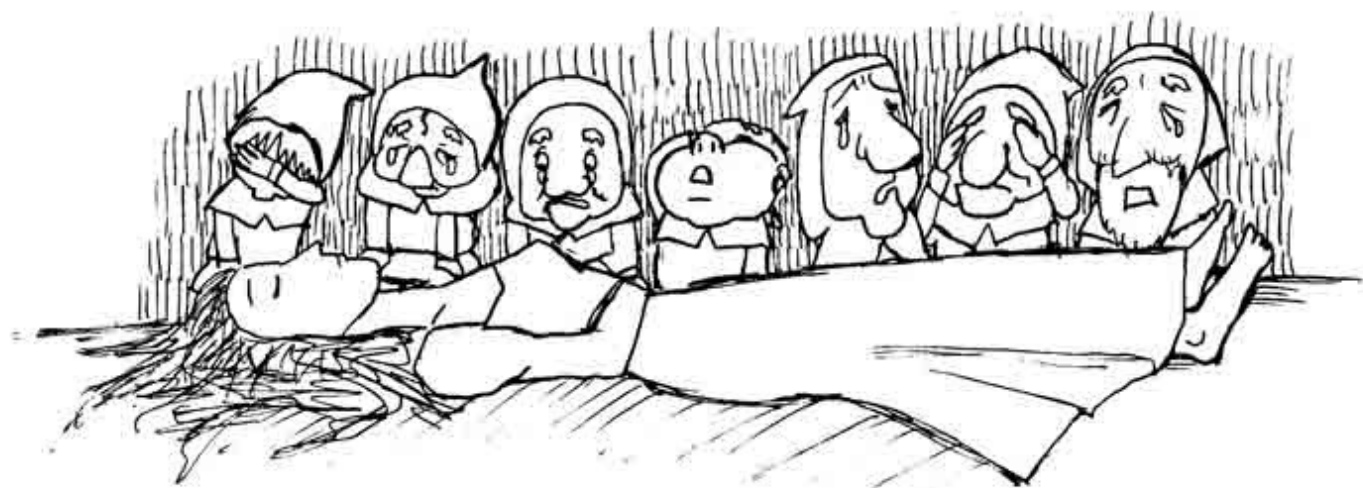
すると 一人で  
白雪姫は りんごを  
モシヤ モシヤと  
全部食べてしま  
いました



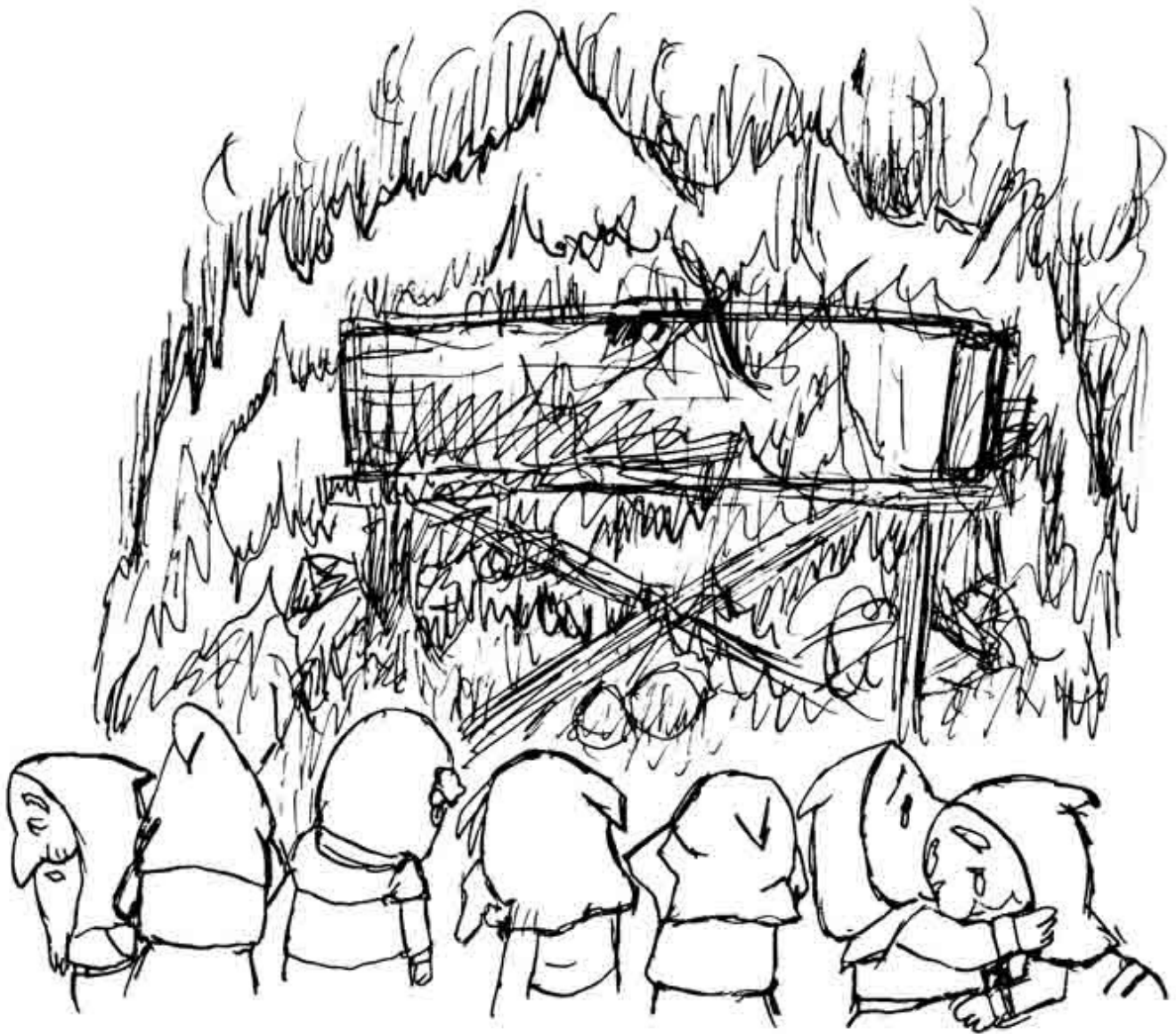
そのあと 急に 白雪姫は  
おなかを おさえて  
苦しみだし 白目を  
むいて 倒れました



そして そのまま 死んだように  
眠りつづけました

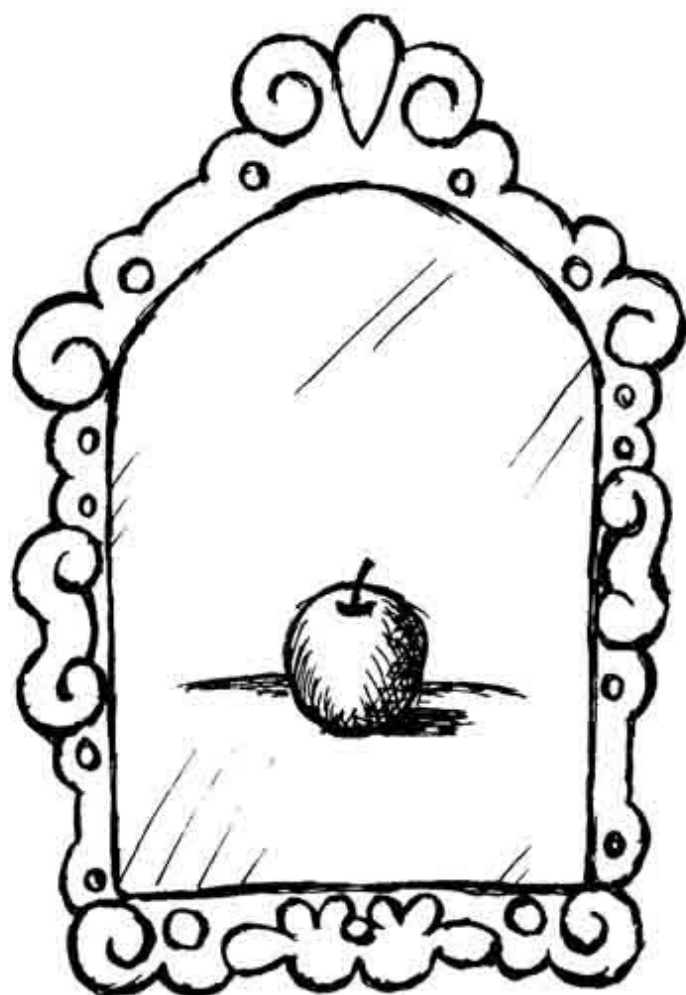






チンチクリンで中年の小人達は  
本当に白雪姫が死んだと思い  
ひつぎにいれ 火葬しました





**END**